



【大学グラウンドからの打ち上げ花火】



【星の城マーケット】



【スポーツチャンバラ】



【ずらりと並ぶキッチンカー】

特集

星城大学 開学 20 周年

記念式典 / 記念講演会 / 星城大学祭「星祭」



学校法人 名古屋石田学園

〒460-0008 名古屋市中区栄1-14-32

TEL.052-689-6002 FAX.052-689-6003



星城大学・大学院



星の城幼稚園



名英図書出版協会



星城高等学校



専門学校星城大学リハビリテーション学院



法人本部事務局



星城中学校

学長挨拶「星城大学 開学20周年にあたって」



星城大学 学長
石田 隆城

2002年に開学した星城大学は、この度20周年を迎えることができました。これもひとえに、皆様のご支援とご協力の賜物と存じます。ありがとうございます。

さて、本学の大切なキーワードである「自分づくり」という言葉は、本学の創立者が建学の精神を纏めたときの言葉である「日々新たな“我”を磨き上げ造っていく」が語源になっています。

本学で学んだ人々が、夢の実現のために自分を磨き続け、互いに力を合わせ、団体・企業や病院で共に活躍する。ひいては家族が豊かに、家族が住まう地域も豊かに、そして豊かで平和な日本が世界の国々とともに発展していく。そんな未来の社会を思い描き、創造する一員になってほしい。そのために本学は「信頼と信用の人財づくり学園」という2025年ビジョンを掲げ、地域の活性化に寄与すべく人財づくりの拠点となるよう事業を進めてまいります。

今後とも、星城大学の教育研究へのご支援とご協力、また、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げ、開学20周年の感謝のご挨拶とさせていただきます。

記念講演会

テーマ

「起業をはじめ新たな“コト”に挑戦したあなたに迫る」



○<前列>

佐藤 仙務(さとう ひさむ)様
『寝たきり社長』株式会社 仙拓
代表取締役社長 / 東海市ふるさと大使

○<後列左>

吉實 拓人(よしざね たくと)様
グランドライフ株式会社
星城大学リハビリテーション学部
2010年卒業

○<後列右>

林 太郎(はやし たろう)様
アパレルブランド『THE BULL』・
『THE BULL Suits』代表
星城大学経営学部 2016年卒業

記念式典の後は、星城大学同窓会が主催となり、記念講演会が開催されました。

生まれつきの難病と闘いながら、社長業、大学教師、TV出演、最近ではキッチンカーも手がけるなど多岐にわたり活躍されている佐藤様。安定した病院の職から離れ、社会起業家として理学療法士、障害福祉、子供支援を柱に活躍されている吉實様。サラリーマンの傍ら、自社のアパレル



【メインスピーカー・佐藤様によるご講演の様子】

ブランドの運営やイベント企画・運営なども手がけ活躍されている林様。3名のヘッドスピーカーをお迎えし、お話をうかがいました。

それぞれご自身の境遇・体験から語られたお話の中で、佐藤様の、逆境の中でこそ挑戦する価値のあるものが世の中にはたくさんあり、その中に実は世の中でとても必要とされるものがたくさんある、吉實様の、経験したことのない様々なことに挑戦することで、その経験が大きな自信となり、さらに次の挑戦につながる、林様の、小さなことでもいい、チャレンジする勇気を持ち、楽しいことも辛いことも経験することで誰よりも刺激的で魅力的な人生を歩むことができる、という言葉が特に印象に残りました。

これから新たな挑戦へ一歩踏み出す後押し、参考となる実りある講演会となりました。

記念式典

10月15日(土)、星城大学が開学20周年を迎えたことを記念し、星城大学東海キャンパスにて記念式典を執り行いました。

式典では石田学長より、開学20周年にあたり皆様への感謝の気持ちと、「自分づくり」をこれまで以上に推進していく、との熱い決意が語られました。続いて石田理事長の挨拶では、創立者石田鋹徳先生の念願であった大学設置までの道のり、そして、これからの21世紀を背負う学生達の育成と、地域にしっかりと貢献していく大学を目指していく考えが述べられました。

最後に、花田東海市長よりご祝辞と、東海市と星城大学との連携について、「地域の課題に目を向けて教育、研究、社会貢献を進める星城大学と本市が連携していくことは大変重要である」とし、今後も地域に開かれた大学、本市の牽引役としてより一層の活躍を期待するとの言葉を頂戴しました。



星城大学祭「星祭」



【リハOT(3年生)による「革細工体験」】

今年度の大学祭のテーマは「煌めき～20年分の感謝を込めて～」としました。星城生が主役となり煌めく大学祭、そして、地域の皆様が開学20周年の感謝の気持ちを伝え、ご家族で楽しんでいただける企画・イベント作りを目指しました。

例えば、学園姉妹校の星の城幼稚園児による和太鼓演奏、星城高校ダンス部や地域のキッズダンスチームによるパフォーマンスなど、子ども達を主役に構成したステージ運営を行いました。

また、子ども縁日、セグウェイ体験、イラストレーターによる似顔絵など、子ども達が大学生と交流しながら気軽に楽しめる企画を多く準備し、当日は常に長蛇の列となりました。さらに、地域住民の皆様が手作り品やワークショップを提供する物販ブース「星の城マーケット」も大変好評でした。

地域の皆様からは「子どもたちが楽しめる場であったこと、全てに感謝の気持ちでいっぱいです」「学生さんがとても頑張っていることが伝わる素晴らしい大学祭でした」などの嬉しいお言葉やお手紙等をいただきました。

約5ヶ月間に渡る準備のなか、学生達も何をしたいのか分からず全く動けない様子が続き心配していました。しかし当日は、自分たちの与えられた役割以上の頑張りを見せる姿に心から嬉しく感じました。ご協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。



【花田東海市長によるご祝辞】



星城大学 開学20周年

- ・ 記念式典
- ・ 記念講演会
- ・ 星城大学祭「星祭」

○ 大学祭実行委員長

経営学部3年 井上 倫子さん

これまで大学祭を経験したことがない学生会が星祭を手掛けるということで、実行委員長として、成功に導けるのかという不安やプレッシャーがありました。しかし、新型コロナウイルスの影響により大学生活らしいイベントが制限された3年間だったので、何よりもまず星城生に楽しんでほしいという想いで準備を進めていました。その甲斐もあり、大学祭当日は、約2,500人という想像以上の多くの方にご来場いただきました。地域の皆様には、開学20周年の感謝の気持ちを私たちが企画した大学祭を通して伝えられたのではないかと思います。最後に、学生会の仲間や学生スタッフ、出演者の皆様、そしてサポートして頂いた教職員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

【学生会(大学祭実行委員)メンバー】



【左:井上さん 右:上原さん】

○ 大学祭実行副委員長

経営学部3年 上原 早貴さん

コロナウイルスの影響のため、入学してから本格的な大学祭は初めてで、実際にどのように進めていけば良いか分からず戸惑うなか、教職員のサポートを受けながら当日まで毎日準備を重ねてきました。私は、主にステージ担当として、イベント協力会社様との連携と学生統括を担いました。大変だったことは、当日のハプニングに対応することです。例えば、お子様勝手に舞台上がってしまったとき、どのスタッフがどのような対応を行うのかを端的に指示することの難しさを痛感しました。しかし、結果として2日間を通して、約160名の出演者様と14名のスタッフのご協力により、無事にステージを終了することができ、良い経験になったと改めて感じています。

星城高等学校 60周年・星城中学校 30周年 記念式典・記念講演会

11月19日(土)、星城高等学校60周年、星城中学校30周年記念式典・記念講演会が石田記念館に於いて、高等学校同窓会、父母の会、中学校後援会の各役員の方々と教職員が参加し執り行われました。計画段階で新型コロナウイルスによる影響が見通せない状況にあったため、急な感染拡大にも対応できるように校内施設を会場とし、参加人数や次第を限定しての開催となりました。式典では校長より、関係者や教職員へ日頃の感謝の言葉が述べられ、学園長からは、創立者の志である建学の精神に立ち返ることが大切、とのお話がありました。



【記念式典での石田校長の挨拶】

式典後の記念講演会では、講師に菊地幸夫弁護士をお招きし、「～ありがとうございました～に心がこもるために」と題して、コミュニケーションの在り方について、講演いただきました。相手にどう伝えたらよいのか、相手の発言や気持ちをどう引き出したらよいのか、答えは普通の言葉、何気ない言葉の中にある、とのお話は日頃のコミュニケーションの在り方を見直す機会となりました。

【様々な経験を語られる 菊地 幸夫先生】



名古屋石田学園 創立80周年記念 「感謝の集い」

令和3年に名古屋石田学園は創立80周年を迎えました。10月8日(土)、コロナ禍の影響により2度の延期を経て、名古屋石田学園創立80周年記念「感謝の集い」が名古屋観光ホテルで開催されました。この「感謝の集い」は、学園が80周年を迎え、石田正城理事長・学園長が学園教職員に対して、これまで学園を支え、育てていただいたことへの感謝の気持ちを伝えたい、との思いで開かれました。



【石田正城理事長・学園長】

はじめに、元衆議院議員で文部科学副大臣も務められた小野晋也先生による80周年記念講演会を開催し、「教育関係者にとっての幸福論」と題してご講演いただきました。教育とは、意志をいかに強く持って取り組んでいくかが重要で、「火種を強く胸に抱いて頑張ってほしい」とのエールを贈っていただきました。さらに、「夢せせ！知恵出せ！元気出せ！」と鼓舞していただき、学園創立者である石田鏡徳先生の思いを織り交ぜながらのご講演は、学園教職員皆の胸が熱くなるような、心に強く響くものとなりました。

石田理事長・学園長の挨拶では、「100周年には、創立者の意志が達成できているように、これからも皆さんの力をお借りしたい」との言葉がありました。食事会では、学園教職員が束の間の歓談ではありましたが、おいしい食事をいただきながら、久しぶりの交流を楽しみました。



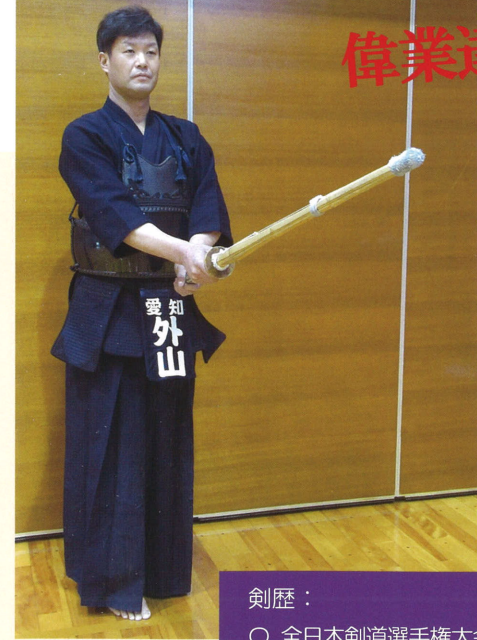
【熱弁される 小野 晋也先生】

瑞宝単光章 受章

◆星城高等学校 白木純 先生



令和4年秋の叙勲で、星城高等学校の仰星館訓練を担当されている白木純先生が、第39回危険業務従事者叙勲において、瑞宝単光章を受章されました。永年にわたり公共的な職務に従事され、優秀な成績を挙げられたことが評価されたものです。おめでとうございます。



- 剣歴：
- 全日本剣道選手権大会 3位
 - 全日本東西対抗剣道大会出場
 - 全日本都道府県対抗剣道優勝大会出場
 - 国民体育大会出場
 - 全日本選抜剣道七段選手権大会出場

とやま ひろき
外山 浩規 さん
(星城高等学校 平成4年度卒業)

- 星城高等学校 (インターハイ、選抜大会、国体出場)
- 日本体育大学 平成8年度卒(インカレ出場)
- 愛知県警察 平成9年に奉職 剣道特別訓練員(現役選手)として14年間従事
- 中部管区警察学校(現在)

卒業生の活躍

偉業達成！**剣道八段 合格**

8月に実施された剣道八段審査会において、星城高校卒業生の外山浩規さんが、385名の受験者の内、唯一の合格者となり、合格率0.3%の日本最難関といわれる試験を見事突破されました。

『星城高校時代は、目標に向けて毎日の厳しい稽古や困難に直面した時も、仲間とともにそれを乗り越え、連帯感を深めていきました。また、キャプテンとしてリーダーシップを発揮し、各種大会で良い結果を残せたことは今も自分の糧になっています。私は剣士として「自分はどうなりたいのか」という将来像をしっかりと見据え、その時々において「今は何をすべきか」を考え、日々稽古に取り組んできました。剣道をはじめ何事にも「成功したときは人のおかげ、失敗したときは自分の責任」との思いで取り組んでいます。これからも指導者としてより高みを目指し、模範となり目標とされる人物を目指していきます。』

星城大学剣道部師範である東良美範士八段、星城大学剣道部監督で星城高校卒業生の関屋猛久教士八段につづき、外山先生の八段合格は学園にとって大変誇らしいことです。剣道の最高段位に輝く先輩方の指導の下、星城大学、星城高校剣道部の今後のさらなる成長・活躍に期待が高まります。



【八段合格の報告に星城大学へ来学されました】

在校生の活躍

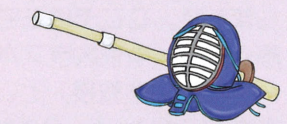
祝 並み居る強豪を打ち倒して！

星城大学剣道部女子 全国大会 3位入賞



【喜びいっぱいの笑顔でポーズ！】

第41回全日本女子学生優勝大会。11月13日(日)、春日井市総合体育館には、全国から勝ち上がってきた56大学がそろいました。初戦で順天堂大学を破ると、接戦を勝ち抜き準々決勝へ。相手は立教大学です。2対2で迎えた大将戦は、互いに譲らず緊迫した接戦になりました。終了間際に主将が放った「メン」に、旗が上がるのと同時に終了。チームの一人ひとりが役割を果たし主将につなぎ、一本を取り切る見事な勝利でした。準決勝では僅差で日本体育大学に敗れましたが、見事な全国3位となりました。



11月29日(火)、東海市役所を訪れ、主将が花田市長に全国3位の報告をさせていただきました。主将は4年間を振り返りながら勝因を語りました。相手に打ち込まれる怖さに耐え逃げずにせめる、一人ひとりが自らの役割を果たしチームで戦う、何より仲の良い仲間、そしてコロナ禍で過ごして感じた故郷の親や祖母への思い。

主将が全国大会で決めた「メン」は3本。親に、仲間に、師匠に素晴らしい恩返しでした。

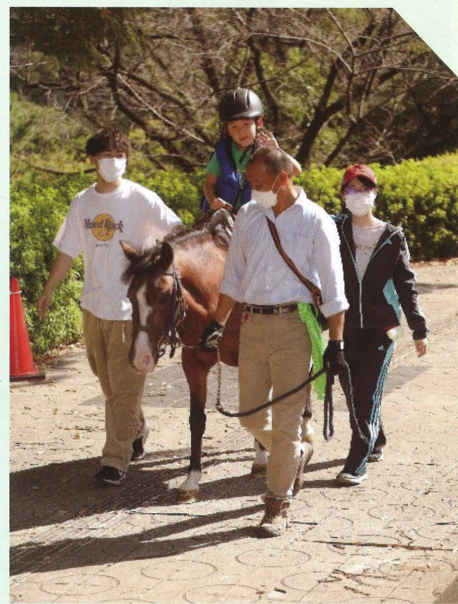


【脇田主将(中左)が花田市長(中右)へうれしい報告】

学園アカルト

「心と体の発達のための乗馬体験」

星城大学



【「乗れたよ！」とうれしい表情】

10月15日(土)、大池公園にて東海市大学連携まちづくり推進事業として星城大学作業療法学専攻が東海市内の小学生を対象に、「心と体の発達のための乗馬体験」を行いました。

三重県湯の山乗馬クラブからポニー(馬)が2頭参加し、作業療法学専攻の4年生が手伝ってくれました。当日は天気にも恵まれ乗馬日和で55名の子どもたちが乗馬体験をし、その後、人参の餌やり体験も行いました。子どもたちは皆笑顔で馬に乗れたことを自慢している様子でした。保護者の方からも子どもが楽しんでいる顔を見ることができて嬉しいという感想をいただきました。

星城大学には乗馬療法を専門にしている教員がいるためこのような事業を行いました。今後も産学官連携事業を継続していきます。



【ポニーがおいしそうに食べてくれました】



「1年生 探究DAY」

星城高等学校

星城高校では10月7日(金)、コース別や探究学習班別で「校外探究学習」が実施されました。

1年生の明德コースでは、初めて校外での探究学習活動をおこないました。2学期はSDGs理解を更に深めるための「SDGs Game開発」を目的としており、校外学習はその情報収集の場としました。

まずは愛知県国際展示場で開催中の「SDGs AICHI EXPO 2022」を訪問しました。ここでは企業や大学がおこなっているSDGs達成に向けた取り組みを参考にしました。次いで班別に分かれ、科学館や企業、防災センター・消費生活センターなどへ訪問し、それぞれの分野での取り組みを学びました。



【地域の方々との有意義な意見交換】

アスリート特進コースでは中京大学へ訪問しました。ここでは三宅恵介先生(中京大学スポーツ科学部准教授)と、東京パラリンピック車いすフェンシング競技出場の前田竜二さんら、二人の星城高校卒業生から話を伺うことが出来ました。

仰星コースと特進コースは、地域課題解決を目的としたSGL活動である「花溢れる街づくりプロジェクト」の校外活動に出向きました。各コースの探究学習の内容に応じて、未来の地球や地域、スポーツについて深く考える良い学習ができました。



【大村知事のお話に耳を傾けます】

感謝の体育祭 10月29日(土)

星城中学校



【みんなでかいっぱい綱を引きます】

今年も絶好の体育祭日和となりました。競技選びや必要な道具の確認などの事前準備から、当日の進行までを体育委員や3年生が中心となり、生徒たちが主体的に行いました。選手宣誓でもあったように、未だ収束しないコロナ禍においても、多くの人たちの協力を得て開催できることに感謝して体育祭に臨みました。

リレーや綱引きではご家族の方にも参加していただきました。生徒たちは、お父さん、お母さん、そして弟や妹の頑張る姿を見てとても盛り上がっていました。最後のスペシャルリレーでは両軍から選抜された10名が軍の勝利のため、精一杯バトンを繋ぎました。アンカーの大将对決では、最後の一步まで勝負の分からない展開でのクライマックスとなりました。

【最後は笑顔でゴール!】



思いがこもった作品展

星の城幼稚園

今年度は「作品展」を幼稚園で行いました。絵画では子どもの思いが出ている作品を選んで飾りました。幼児期の絵は一つの表現です。体験したこと、経験したことが絵として表現されます。保育者はその思いを受け止めたり、共感したりしていきます。



【おいしそうなお弁当ができました】



「造形遊び」はつぼみ組がお弁当作り、年少組は紙粘土制作、年中組はデカルコマニー、年長組は紙版画に取り組みました。偶然できた形を見立てたり、「これは〇〇だよ」と命名したりします。紙版画は刷った時の感動を味わうことができました。そんな子どもの思いが詰まった作品展には沢山の皆様に来ていただきました。これからも幼児期ならではの制作活動をしていきたいと思っています。



【思いのこもった絵がずらりと並びました】

絆深まる体育祭

星城大学リハビリテーション学院

10月28日(金)に愛知県体育館にて体育祭を開催しました。今年度は、カリキュラム変更に伴い、臨床実習へ向かっている3年生を除く2学年の参加でした。

各クラス対抗で大縄跳びやバレーボールなど、全5種目にて得点を競いました。学生会を主体に、クラスの絆を深められる工夫がたくさん盛り込まれていました。学生からの要望で、教職員の競技参加もあり、学生も教職員も全員が楽しめる体育祭となりました。



【クラス対抗綱引きでは教員も一緒に頑張りました】



【学生会メンバー、よく頑張りました!】



【借り物と一緒にはいチーズ!】

特定感染症拡大に伴い、これまで大掛かりな行事が出来なかったため、今回学生たちのきらきらした笑顔を見ることができて、とてもうれしかったです。体育祭で培ったクラス力を今後の学校生活にも活かしていきましょう。

学園創立 80 周年を機に原点回帰し、創立者石田鏞徳先生の「思い」を、改めて現代を生きる私たちで考えていく場とさせていただきます。

現理事長石田正城先生は、創立者の教育理念を学園、社会に、さらに世界に向けて具体化するため、これまでも尽力されてきています。シリーズ「建学の精神」最終回となる今回は、創立者の「思い」を継承した石田正城理事長に「世界観の確立」について寄稿していただきました。

「世界観の確立」

名古屋石田学園理事長・学園長 石田正城

建学の精神「彼我一体」の「彼」とは、前代の人^{のこ}が遺してくれた遺産です。それは有形のものだけではなく、自然、自由、平和、文化、思想といった、「我」を取り巻くすべてのものをいいます。

今、私たち日本人は日本に生まれただけで、他の国では手に入らない様々な恩恵を手にしています。「遺産」は読んで字のごとく、自分が作ったものではありません。誰もが世界を含め、ありとあらゆる人々の遺産と恩恵にあずかって生かされているのです。先祖に感謝です。この事実を忘れず、“感謝のできる”人にならなければなりません。感謝ができて初めて、遺してもらった遺産を享受することができるのです。そして精進を重ね、今度は自分たちが作り上げたものを、遺産として次世代に遺していくのです。

今年^{いざな}は戦後 77 年になります。21 世紀はすでに 20 年も経過し、日本の社会や経済は大きく変動してきました。著しいグローバル化で新興国が台頭し、世界における日本の存在感は年々薄くなる一方です。更に時代は第 4 次産業革命と称されるように、AI、IoT 等の進化や利用環境の発達^{いざな}が、高度情報化社会をはるかに超えた未知の領域に人間を誘おうとしています。また一方で、どの国であっても、もし政治、経済、文化等のあらゆる面において世界の国々と分断されることがあれば、即座にその日の生活すらおぼつかなくなるのも現実です。

私たちは今こそこの厳然たる事実に立脚し、その世界的人生観を確立し、日常生活において広く眼を世界に注ぎ、自らの人格完成と人類への文化的寄与を遂行していかなければなりません。

☆「世界観の確立」につながる先哲の教え（抜粋）

☆ 英語を学習するのは、真に世界一家、人類同胞の幸福な人生^{けんげん}を顕現するためである。かかる高遠なる理想の下に、我等は決して自己一個人の利益のためにのみ学んでいるのではない。否、生活の便宜のために、何等かの利益を得んがためにのみ学んでいるのではない。
我等の進路は国際の大道である。 — 創立者石田鏞徳先生

【祈明日 p.140 「広く眼を世界に注げ」】

☆ 愉快は努力にあり
幸福は感謝にあり
信用は利他にあり — 増永靈鳳先生（駒澤大学名誉教授・仏教学者）
【祈明日 p.204 「洗心のとりで」】



☆ *Life is an exciting business
and most exciting when it is lived for others.*
人生は胸躍るものです。そして最もワクワクするのは、人のために生きる^{いざな}ときです。

— ヘレン・ケラー（盲ろう者の教育家）

☆ 夢なき者に理想なし
理想なき者に計画なし
計画なき者に実行なし
実行なき者に成功なし
故に、夢（高い志）なき者に成功なし

— 吉田松陰（長州藩士・思想家・教育者）